

調査の様子を示した写真

1. UAV テストフライト成功後、全員集合写真.

後列左より、北川、ソロモン(ドライバー)、Tesfaya、Ameha、加々島、ムスガノ(INSA)、藤井、ムハンマド(現地ガイド)、セイド(ドライバー)、アレックス(ドライバー)、バギゾウ(INSA)

前列左より、吉村、岩本、角屋、東野、石川、パーシー(ドライバー)、サミー(ドライバー)、右3人はUAV飛行場のガード(現地住民)



2. 地上班 MT 設置最終ポイントでの記念写真. 日差しが強く, 写真を撮るのが難しい. 比較的涼しい 11 月でも気温は 38 度くらい. すぐ日焼けします.

左から, 藤井, ソロモン, 加々島, Ameha, サミー, ムハンマド, 現地ガード, 吉村. (調査後半, 北川は UAV 班の記録係として活動)



3. 溶岩流の最上部に登頂, 岩石サンプリング地点からの眺め. 道なき大地をランクルとピックアップトラックで駆け巡る. 下のオレンジ色に見えているところが MT 設置場所の一つ.



4. 磁場探査のコイル(南北, 東西, 垂直方向に埋設), この他電極を東西南北・中央の5箇所埋設する. 日よけテントの中に, 記録装置やバッテリーを設置. 2晩観測するため現地ガードを雇う.



5. ラクダが放し飼いされています.



6. 溶岩流の露頭観察



7. フラックスゲート磁力計. 2016年の探査では吉村さんはこれを背負い, 4日間で60kmあまりを踏破. 加々島も1日お付き合いした. 今回は, 強磁場ポイントの精査を行った. 左から, Ameha, ソロモン, 吉村, 北川.



8. 普段の昼飯はバナナとオレンジだけということが多かったが、たまに昼頃町にいるときにはちゃんと昼食をとれます。現地の一般的な飯、シュロ(カレーのようなもの)とエチオピアの主食「インジェラ」(テフという穀物から作られる酸っぱいクレープみたいなもの)。ネットで検索すると、見た目と味から苦手な人が多いようですが、我々はすっかり慣れており美味しく頂いていました。

